

平成29年度当初予算関係  
研究評価結果報告書

山形県試験研究機関試験研究課題  
山形県試験研究機関業務課題  
山形県試験研究機関新規公募型研究課題

平成29年3月

山形県研究評価委員会

## 今回報告のあらまし

本報告書は、平成29年度に県試験研究機関が取り組む 1. 試験研究課題(一般研究課題、継続する公募型研究課題)、業務課題、2. 競争的外部資金への応募を予定している新規の公募型研究課題を対象とした事前評価結果を取りまとめたものである。

対象課題の内訳は、試験研究課題146課題、業務課題39課題で、合計すると185課題となる。

## 1 平成29年度県試験研究機関が実施する試験研究課題等の事前評価

### 1-1 評価対象及び評価方法

県試験研究機関が実施する試験研究課題146課題、調査・検査、普及指導等の研究以外の業務課題39課題の合計185課題について、課題計画書等に基づいて書面評価を行った。新規課題のうち研究費50万円以上の36課題については、書面評価に加え、口頭発表と委員からの質疑内容を加味して評価を行った。次表に試験研究機関別の評価課題数を示す。

研究機関毎の評価課題数(平成29年度)

試験研究機関名	試験研究課題	業務課題	計
環境エネルギー部			
環境科学研究センター	1		1
健康福祉部			
衛生研究所	6	5	11
商工労働観光部			
工業技術センター	24 (7)	9	33
工業技術センター置賜試験場	1		1
工業技術センター庄内試験場	2		2
農林水産部			
農業総合研究センター	18 (5)	7	25
農業総合研究センター園芸試験場	26 (9)	4	30
農業総合研究センター水田農業試験場	12 (4)		12
農業総合研究センター畜産試験場	13 (4)	1	14
農業総合研究センター養豚試験場	5		5
水産試験場	4 (2)	3	7
内水面水産試験場	4	2	6
森林研究研修センター	15 (1)	7	22
村山総合支庁 産地研究室	1	1	2
最上総合支庁 産地研究室	5 (2)		5
置賜総合支庁 産地研究室	3 (2)		3
庄内総合支庁 産地研究室	6 (1)		6
合計	146 (37)	39	185

※カッコ内は口頭発表課題数(内数)

## 1-2 評価の視点

各課題についての評価の視点は次表のとおりである。

### (1) 試験研究課題(一般研究課題及び公募型研究課題)

評価項目	評価の視点
目的の明確性	地域ニーズ、社会的要請や行政施策を踏まえ、試験研究の目的や目標を明確にするとともに成果を測る指標等を設定し、定量的に進捗管理できるようになっているか。
研究進度に応じた熟度	当該研究目標が目指すべき最終目標に対して、適切な段階の設定となっているか。当該研究の研究段階に応じた知見、技術的課題、公募型研究プロジェクトなど連携・協働への展開可能性などが明確になっているか。
成果波及の可能性	研究成果の活用及び実現可能性の検討・検証がなされ実用化への道筋が明確になっているか。
試験研究手法の妥当性	アドバイザー・ボード等からの助言指導を受けての対応や、その他研究手法が効率的なものとして組み立てられているか。

### (2) 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の合目的性	試験研究機関全体として期待される具体的な使命の中で、当該業務の位置づけや必要性が明らかにされているか。
業務の発展性及び戦略性	当該業務が担う役割や個々の試験研究との関連及びその有用性や発展性について検討されているか。 相談や検査・調査、普及、指導等の業務を新たな研究開発への展開や地域経済、県民生活に還元しようとしているか。 他機関との連携・協働等について検討されているか。
業務実施体制の適切性	当該業務の内容が、試験研究機関の担っている役割分担や能力に見合っているか。効率的な運営、適切な実施方法が検討されているか。

### 1-3 評価結果の概要

提出された試験研究147課題、業務39課題についての評価結果は、次表のとおり研究内容は基本的にすべての課題について妥当であると評価した。なお、個別課題毎の評価結果及び評価委員会による助言・指導については表1(頁4～19)に示した。

#### (1) 試験研究課題

##### ① 一般研究課題

評価結果		課題数
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題	A	26
研究計画は概ね適切であり、研究の展開が期待される課題	B	66
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、研究の展開が期待される課題	C	19
研究計画の大幅な見直しが求められる課題	D	0

##### ② 公募型研究課題

評価結果		課題数
計画が適切であり、提案を妥当とする課題	可	35
研究の内容や目標の設定など計画の見直しが求められる課題	不可	0

#### (2) 業務課題

評価結果		課題数
業務計画が適切であり、実施すべき課題	可	39
業務の内容や目標の設定など業務計画を見直したうえで実施すべき課題	不可	0

## 2 事前評価における全体的意見

○継続課題の提案書では、これまでの実施状況について、その結果と問題点、課題の発展性などについても触れ、その上で、今年度の計画、問題点の解決・発展に向けた計画などについても触れた論理的な内容とされたい。提案当初とほぼ同じ内容で引き続き記載されている、改善が必要と思われるものも見受けられた。

○提案書における研究課題の目的、実施計画・内容の記載が、研究機関によってはいたって希薄で研究の方向性・推進体制がみえないものもあった。いずれの研究機関におかれましても記入後の点検を行う等、研究内容の向上につながる仕組みづくりが行われることを期待したい。

○個々の研究においては、継続により、さらに大きく発展を期待できるようになった課題、発展を期待できる新規課題などが見受けられた。

表1 平成29年度県試験研究機関研究課題・業務課題 事前評価

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
1	野焼き等によるPM2.5高濃度発生状況の解明に関する研究	環境科学研究センター	一般	B	野焼きの減少、剪定枝のバイオマスとしての有効利用に繋がることを望みます。なお、どの程度の範囲まで野焼きの影響を受けるのか、影響を受けやすい地形の特徴なども合わせて知ることができると良いと思います。
2	感染症媒介蚊の生息状況調査	衛生研究所	一般	A	県内あるいは近県で関連する病気等が何時発生しても、県として何らかの対応ができるような状態になっていることが必要なため、他研究所の動向にもアンテナを張り、成果を上げることを期待します。
3	ダニ媒介性感染症に関する総合的研究	衛生研究所	一般	A	基礎データを蓄積することは重要であり、順調に進んでいると思われます。広い地域で多くのサンプルを採集できるかが重要になると考えられます。
4	コロナウイルスの疫学研究—迅速定量遺伝子検出系及びウイルス分離方法の確立	衛生研究所	一般	A	継続研究によりコロナウイルスの全容の解明が期待されます。経過が逐次山形から世界へ発信されており、医療面で感染症の予防に役立つようになることを期待します。
5	自然毒の新規分析法開発及びそれを用いた自然毒食中毒の原因究明に関する研究	衛生研究所	一般	B	いくつかの成分については、成分の一斉分析も可能になり、今後利用できる成果とっております。達成されればインパクトは非常に大きく、成果の普及にも期待します
6	現場における食用キノコとツキヨタケの判別法の開発	衛生研究所	一般	A	ツキヨタケの事故は頻発しており、簡易判別法の確立が事故原因の解明に役立つ事を期待したい。簡単に確実な判別法が発見できれば、非常に意義のあることだと思います。
7	コクサッキーウイルスA6型の疫学研究	衛生研究所	公募	可	研究所の強みを感染症予防等につなげる研究テーマだと思います。サンプルおよび解析データの長年にわたる蓄積は、この分野における研究の発展につながる事が期待されます。
8	マイコプラズマ培養受託	衛生研究所	業務	可	検体からのマイコプラズマの分離培養と迅速診断キットの感度の改良、特異性などの継続的な比較検討は、迅速診断キットの更なる改良に繋がると考えます。医療現場での診断に貢献してほしい。
9	職員研修 PCR法検査トレーニングコース	衛生研究所	業務	可	PCR法は極微量サンプルを用いての各種生化学的な検査、病気の診断などに有用とされており、その技術のトレーニングによる習得は正確な検査・診断を行う上でも必要である。
10	職員研修 液体クロマトグラフ質量分析計	衛生研究所	業務	可	食中毒原因物質や薬物の同定、残留農薬の検査に有効とされる液体クロマトグラフ質量分析計の機能を最大限に発揮させるためには、測定者の研修による技術の習得が必須。
11	職員研修 ガスクロマトグラフ質量分析計	衛生研究所	業務	可	ガスクロマトグラフ質量分析計は種々の毒素や薬物の同定、残留農薬検査などに必要な機器であり、機器の持つ能力を最大限発揮させる上でも、測定にあたるヒトのトレーニングは必須と考えています。
12	衛生研究所設備整備費	衛生研究所	業務	可	耐用年数も過ぎ、老朽化が著しいものは、早急に更新すべきである。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
13	表面機能を創成する微細切削・転写加工技術の開発	工業技術センター	一般	C	企業の期待も高く、成果が期待される研究だが、バリや欠けの発生を軽減するための方策などの課題を解決するための手法を明らかにしていく必要がある。
14	機械的信頼性向上に向けた熱可塑性樹脂の成形加工技術の開発	工業技術センター	一般	B	樹脂の機械的性質を主眼に据えた研究は、社会的にも極めて重要と言えるが、研究成果が単なる構造観察では十分とは言えない。スキンコアや配向度の問題などについては、従来の研究との違う点についての説明が欲しい。
15	難削材の複雑形状加工を可能とするカーボンナノチューブ複合長寿命レジソンド砥石の開発	工業技術センター	公募	可	カーボンナノチューブの特性を生かした合理的な応用展開研究として成果が期待されるが、成果目標が数値になっておらず、これまでの達成状況が不明である。
16	めっき皮膜／母材界面組成が密着性に及ぼす影響	工業技術センター	一般	C	高い信頼性のめっき技術の開発は不可欠であり、結果への期待が大きい。これまでの達成状況からみて、進捗が少し遅く、目的の達成は困難な印象を受ける。
17	フェーズドアレイ超音波探傷法を用いた鋳鉄内部欠陥評価法の確立	工業技術センター	一般	B	県内重要産業の鋳物製品の信頼性向上のため有用な研究課題であり、現場での活用方法を十分に検討してほしい。従来法に比べ分解能がどれくらいになるかなどの見込があるとよい。
18	鋳鉄製造現場における固体発光分析の精度向上	工業技術センター	一般	B	県内の鋳物製品の信頼性向上、業界全体の分析技術の向上は重要な課題であるが、分析精度を下けている原因を明らかにするためには、全ての分析経過の詳細を把握しないと、どこを改善する必要があるのかを搾る段階で困難が生ずるのではないかと。
19	官能センシング評価を活用する県産酒のフレーバー成分分析	工業技術センター	一般	B	消費者に分かりやすいフレーバーチャートを実現することは重要だが、活用と普及の方法について、十分に検討していただきたい。また、評判の良い他県産酒の分析データから、県産酒の優位性を示すようなチャートの作成も検討して欲しい。
20	県産ワインの風味向上技術に関する研究	工業技術センター	一般	B	科学的データに基づいたブドウの栽培とワインの醸造により、他との差別化、ブランド力の強化などの波及効果を期待する。ぶどうごとに適した醸造方法についても検討するとよいのではないかと。
21	県産食用花の外観を生かした新規加工食品の開発	工業技術センター	一般	B	食用菊など山形の特徴的食文化を広く普及させるため、外観にも紅花が反映された食品の加工などを期待したいが、具体的な課題と対応に関する説明が不足している。
22	果肉硬度に着目した果実加工品の開発	工業技術センター	公募	可	県産果実の消費拡大に有用な開発研究であり、県内企業と連携を密に取りながら研究を推進していただきたい。
23	共生発酵技術を用いた新規乳酸菌利用発酵食品の開発	工業技術センター	一般	B	1000株の純粋分離は厳しいのではないかと。また、この中から何を基準に500株を選抜するのか。どのようなスクリーニング法をとるのか、戦略をねってから、始めるとよいのではないかと。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
24	センサーネットワークによる 情報収集システム開発	工業技術センター	一般	B	IoTの技術は、様々な業種に应用可能で、県としても、基礎的技術や情報を蓄積しておく必要があるが、既に現場での実証が進んでおり、このスピード感では少し遅いように思える。農業や漁業への展開や県内中小企業への普及可能性にも考慮しながら取り組んでほしい。
25	AQ性能を実現する木材の 耐候性向上技術の開発	工業技術センター	一般	A	県内木材の利用にも貢献する課題として期待するが、全ての評価を自前で行うのではなく事例を踏まえた効率的・効果的な対応も検討してはどうか。また、耐生物汚染性について、より長期的な影響に関して検討する必要はないか。
26	共振型マルチモーダルセン サの開発	工業技術センター	一般	A	既に技術蓄積があるMEMS技術の目的を絞った応用研究であり、進展が見込まれる。これまでのセンサのどこが問題なのかを検討しながら研究を進め、開発コストや市場性などを吟味した上で製品化ターゲットを検討していただきたい。
27	超上流からのロボット設計 技術の開発	工業技術センター	一般	C	県内小規模企業へのロボット導入の基礎研究としてタイムリーな課題である。ロボットにも様々な形態や機能があり、どのような分野のどのような機能のロボット設計技術を目指すのか、もう少し具体化する必要があるのではないか。
28	人工知能を応用した認識・ 予測技術の開発	工業技術センター	一般	B	人工知能は様々な実証が始まっているが、現場での適用に手間取っている一面もある。独自予測手法の確立より、オープンソースやデファクト技術の利活用と県内普及を目指すべきである。また、当初から低コストでの普及を念頭において進めるべきである。
29	ヘルスケアセンサ向け非真 空ビルドアップMEMSプロセ スの開発	工業技術センター	一般	B	塗布型MEMSの開発・製造技術は、世界中が競って開発を行っているが、県内の中規模企業に広く普及させるべきである。ヘルスケア領域のみならず、実製品への展開を期待したい。
30	光計測による錠剤用徐放膜 管理システム開発	工業技術センター	公募	可	工業技術センター保有技術であるOCT計測の実践的な展開研究であり、新規性の高い技術が早期に確立されることを期待する。相関係数を上げるための問題点が整理されるとよい。また、OCTの導入コストに関しても言及すべきかと思う。
31	金属・樹脂複合体の3Dプリ ンティング技術の開発	工業技術センター	一般	B	異質なものを混ぜて使う際は界面の問題が生じるが、どのように考察しているか。また、3Dプリンター成形品の強度部材としての評価基準と方法に関する検討が重要と考える。実用化を見据えた成果が期待される。
32	麻及び絹の捲縮加工による 春夏素材の開発	工業技術センター	一般	C	伝統的素材を現代に効率よく再導入できれば、文化的かつ高付加価値製品になることが期待できる。製品化を視野に、開発素材のメリットや用途の発表など、市場への働きかけを積極的に行う時期ではないかと思う。
33	県産紅花加工技術の高度 化と染色工業への応用	工業技術センター	一般	C	最終年度は実際に染色機械を使用した検証を計画しているが、十分な基礎データが集まっているのが不明である。本研究成果の普及先となる企業と連携を取りながら、出口に向けた活動にも取り組んでほしい。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
34	超音波楕円振動を活用したダイヤモンド切削工具の機上成形	工業技術センター	一般	B	機上成型が実現すると、作業時間には影響があるのか。成果指標の値は、従来法であれば実現可能な値なのか。企業側のメリットなどについても、十分に議論しながら進めてほしい。
35	県オリジナル酵母の開発と県産米とのマッチング研究	工業技術センター	一般	B	欧米諸国への輸出等を考えると、ワインに似たフルーティな香りを持つ吟醸酒が望まれると思われる。また、「雪女神」以外に使用しても酵母の特徴を活かせるのか。酒造メーカや消費者の意見なども聞きながら、是非成果につなげてほしい。
36	企画情報事業	工業技術センター	業務	可	組織内の各部署の連携のみならず、他の公設試や大学等とのつながりを深め、産学官連携を進め、その舵取りの役目を十二分に果たしてほしい。
37	高度技術者育成支援事業	工業技術センター	業務	可	若手の研究員の資質向上のためには、さまざまな情報を修得してくることが重要である。その際、国内外の諸分野の先端企業等へ研修に出ることも将来を見据えた長期的戦略として重要かと思えます。
38	施設・試験研究機器保守検定事業	工業技術センター	業務	可	指導試験、受託試験、研究開発などに用いる機器の保守検定事業は、信頼性を必要とする試験データ・研究データを収集する上で重要であり、精度保証の面からも不可欠な業務である。
39	ものづくり製品化支援事業	工業技術センター	業務	可	「ものづくり創造事業」は、市場や専門の会合での調査、異分野との交流などに積極的に取り組んで成果に結び付けて欲しい。「ものづくり共同研究」は、重点分野の研究の成果を具体的にイメージして取り組んでいく必要がある。
40	ものづくり企業訪問事業	工業技術センター	業務	可	県内企業の製品開発支援につなげるため、研究開発事業の全体的な状況を把握しながら実施すること。
41	指導試験事業	工業技術センター	業務	可	指導試験事業は基幹事業であり、企業ニーズを直接聞くことは、各企業が持つ技術の根幹に触れることで非常に重要である。県内企業の技術支援や研究開発の種の発掘及び製品開発支援にもつながるものである。
42	デザイン振興事業	工業技術センター	業務	可	デザインに関する業務は、あらゆる分野の製品に関係してくるものであり、幅広く対応する必要がある。外観だけでなく機能、性能をも考慮した検討が重要で、センター各部署と連携して効果的な企業支援を推進してほしい。
43	委託分析試験事業	工業技術センター	業務	可	公的試験機関として実施すべき重要な役割の一つで、指導試験業務と同様に工技センターの根幹をなす業務である。既存設備の整備・更新、新規設備の計画的な導入が不可欠である。
44	次世代新素材評価分析支援事業	工業技術センター	業務	可	県内企業と連携を密にしてどのような評価試験が必要とされているかをよく把握して支援を進めていくべきである。



整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
45	複合酵素・発酵技術とメタボロミクスを活用した高付加価値果実加工品開発	工業技術センター 庄内試験場	一般	B	メロン加工品への消費者意識を変える可能性のある研究であり、多くの商品開発を産む技術開発を行ってほしい。機能性表示食品となる加工食品になることを期待したい。
46	発酵と官能センシング評価を活用した新規低塩漬物開発	工業技術センター 庄内試験場	一般	B	凍結圧縮法では、従来の方法に比べ十分な食感が得られるのか、栄養成分が漏出ししないのが気になる。市場ニーズにマッチしており、実現を期待したいが、これまでの研究成果についての記載がないため進捗がわかりづらい。
47	繊維製品の摩擦堅ろう度向上技術の開発	工業技術センター 置賜試験場	一般	C	伝統的な繊維産業を支援するために重要な研究課題である。実用化までには、解決策のコスト面での検討が必要と思われる。
48	すいかの食感・香りを活かす新しい加工技術の開発	農業総合 研究センター	一般	B	瓜臭低減のメカニズムについても詳細に検討し、研究戦略を練って制御の研究にとりかかるとよいと思う。
49	県産米利用拡大のための新規加工技術の開発	農業総合 研究センター	一般	B	新たな米加工技術の開発は、米生産者・食品加工企業の双方のニーズが高いと思われる。市場調査等を十分に行い、必要とする技術を確固たるものとして開発し、製品の開発にあたってください。
50	ラ・フランスのピールカット加工・流通技術の開発	農業総合 研究センター	一般	B	最終年度で、製品に結びつく成果が期待される。加工に使用する水等(マイクロバブル水など)の検討も有効であると思われる。
51	伝統豆類の加工適性の解明と機能性評価	農業総合 研究センター	公募	可	市場規模が拡大しつつある伝統豆類の加工法に、科学の目を入れることにより高付加価値化が見込める。商品の狙いに対し、適する豆を探す発想も取り入れて欲しい。
52	県産有機野菜の安定生産のための土壌管理技術構築	農業総合 研究センター	一般	B	有機野菜栽培技術の体系化は大切な課題である。導入技術の意義、評価法、問題解決法も、いくつか例示して欲しい。
53	県産米の低投入・低排出型生産技術体系の確立と付加価値の見える化手法の開発	農業総合 研究センター	一般	B	検討も進んでおり、温室効果ガス削減に向けた栽培技術の確立を期待したい。
54	斑点米発生のリスクの解明による効率的な斑点米カメムシ類の防除技術の確立	農業総合 研究センター	一般	B	コストダウンの方策として有意義な研究課題。最終年度には実証と普及の道筋の提示が期待される。
55	水稲作におけるカリの適正施用指標の策定	農業総合 研究センター	公募	可	カリ資源の枯渇を防ぐ上でも、また、カリ含量が適正な作物の栽培を目指す上でも期待したい課題と思います。
56	可給態窒素の迅速診断に基づく窒素施肥の適正管理	農業総合 研究センター	公募	可	本研究成果が、適切な土壌管理へ応用され、生産効率向上に寄与することが期待される。診断に使用する器機の優位性と、その利用による展望も欲しい。
57	大豆多収阻害要因の把握指標の開発	農業総合 研究センター	公募	可	大豆の多収阻害要因の特定を目指しており、転作安定多収技術の確立に向けて期待が持てる取り組みである。多収産地域の特徴等の情報は指導にも活用して欲しい。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
58	イネばか苗病に対する化学農薬を用いない防除技術の開発	農業総合研究センター	一般	A	農業に頼らず衛生管理に着目した防除技術の確立を目指しており時宜を得た取り組みである。
59	第3期そば優良品種の開発	農業総合研究センター	一般	B	期待しているの内容の品種となることを期待したい。健康機能と関る成分が含まれると栄養機能食品、機能性表示食品としての利用展開も期待できる。
60	大豆圃場における難防除雑草対策技術の開発	農業総合研究センター	一般	B	増収のための重要な技術であり、順調に進んでいるように思います。更に実証試験を通し、技術のマニュアル化を期待したい。
61	営農情報管理システム導入による大規模稲作経営支援技術開発	農業総合研究センター	一般	B	大規模経営のビジョン、メリット、収入の増加の定量的な見込みなどが一括して社会に示せるような成果が期待される重要な研究といえる。
62	米の輸出拡大を目指した多収低コスト栽培技術体系の確立	農業総合研究センター	一般	B	量産化によるものを含み、輸出に特化した徹底的なコストダウンの方法論は、一つの技術パッケージとして価値が有る。
63	大豆本作出化を見据えた大規模安定生産技術の確立	農業総合研究センター	一般	B	安定した生産に繋がる土づくりのための技術開発を目指した内容と思いますが、つくられた作土が優れていると判断するのに必要な基準も提供できると良い。
64	県産日本酒の高品質安定生産に向けた酒造好適米の最適管理技術の確立	農業総合研究センター	一般	B	早急に進めるべきテーマである。適度な「蒸米消化性」と米の物理的特性、成分の相関について整理が必要である。
65	スマート農業を実現するリモートセンシング技術を活用した水稻広域生育診断システムの構築	農業総合研究センター	一般	B	今後必要性が増してくることが予想される分野であり、将来の基盤技術として使いこなせるようになっておく必要がある。
66	農作物作柄診断解析調査	農業総合研究センター	業務	可	生育データを蓄積することは、品種別の収量や品質に対する気象条件の影響を解析するために非常に重要となる。変動要因の解明や対策技術の確立につなげることが望まれる。また、情報化が進む中で迅速な情報提供のシステム構築が期待される。
67	消毒装置の高度利用化を目的とした農学的手法によるばか苗の評価試験	農業総合研究センター	業務	可	種子の蒸気消毒処理技術を核とした苗生産体系を確立するための補完技術として早期に方法論を確立して、試験を遂行していただきたい。
68	農産物加工開発技術指導	農業総合研究センター	業務	可	加工相談件数の増加に伴い、業界の課題、ニーズの集約が進むと思われる、担当する研究員は経験を蓄積し、技術の向上に努める必要がある。数年後の成分表示義務化を見据え、組織的対応法や6次産業者等への啓蒙指導の検討も必要となろう。
69	水稻・畑作物奨励品種決定調査	農業総合研究センター	業務	可	有望系統の特性や適応性を現地で確認することは、生産者や実需にとって重要な課題であり、大きな責任をとる業務となる。地域適応性や年次変動の解析も含めた品種の評価が重要となる。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会指導・助言
70	新農薬(殺虫剤・殺菌剤)の効果と使用法試験	農業総合研究センター	業務	可	新開発の殺虫剤や殺菌剤の当該地域における有効性や効果的な使用法について検討することは、安全性や効果の高い新規剤の開発を促進するとともに、開発剤のスムーズな普及に有効となる。
71	新除草剤及び新植物調節剤に関する試験	農業総合研究センター	業務	可	新開発の除草剤や植物調節剤の当該地域における有効性や効果的な使用法について検討することは、新規剤の開発を促進するとともに、開発剤のスムーズな普及に有効となる。
72	新肥料及び新資材に関する試験	農業総合研究センター	業務	可	当該地域における有用性や効果的な使用法の検討は生産性の向上、省力化にもつながり、結構かと思えます。
73	第5期山形県りんごオリジナル優良品種の開発	園芸試験場	一般	A	長期継続の課題ですが、計画通り進捗していると思われます。第5期最終年度には品種登録が達成されることを期待します。
74	ももの立ち枯れ対策技術の開発	園芸試験場	一般	A	地球温暖化に伴い、ももの新たな適地として山形県に期待がかかります。全国的な問題のようなので、先行研究も積極的に検証して進めてください。
75	オウトウ白紋羽病の温水を用いた治療技術の開発	園芸試験場	公募	可	最終年度であるので、普及させ易い技術としての確立が期待されます。環境負荷の少ない技術が開発されるよう、さらに精力的に検討を進めて下さい。
76	オウトウにおける天敵を主体としたハダニ防除技術の確立	園芸試験場	公募	可	まずは「土着天敵の探査」に一定の結論を得ることが期待されます。最終的には、天敵を用いてハダニの防除ができるようになることを期待します。
77	ぶどうを加害するクビアカスカシバ総合防除技術の確立	園芸試験場	一般	A	このような害虫の生態の把握には、注意深い観察が必須です。頻繁に現場に出て、新しい発見に努めてください。防除技術が確立されることを期待します。
78	第7期西洋なしオリジナル優良品種の開発	園芸試験場	一般	A	順調に進んでいる研究内容であると思えます。長期継続の課題ではありますが、第7期最終年度には品種登録が達成されることを期待します。
79	第4-2期おうとう新品種の開発	園芸試験場	一般	A	確実に研究が進んでいると思われます。新品種開発におけるDNAマーカーの有効な利用法についても、今研究から知見が得られることが期待されます。
80	県内遺伝資源を活用した加工用なす品種の育成	園芸試験場	一般	A	既に有望な系統の選抜も進んでおり、十分準備がされている課題であると思えます。なお、見通しが立った段階で、市場にアピールする活動も必要かと思われます。
81	りんどうオリジナル新品種の開発とクローン増殖技術の確立	園芸試験場	一般	B	水田転換品目の開発として期待が持てます。他産地の品種と競合がないように市場をみつつ、県オリジナル品種の開発を目指してください。
82	DNAマーカー利用によるおうとうの育種支援システムの開発	園芸試験場	一般	A	品種開発の基盤要素技術として有望な取り組みであると思えます。DNAマーカーの開発によって、育種のスピードが上がることを期待します。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
83	ぶどう「シャインマスカット」周年安定供給に向けた越年出荷技術の開発および輸出実証	園芸試験場	公募	可	着実に研究が進展しているようですが、長期保存による味、栄養素等の変化についても検討していくことが、価値の高い商品の提供に繋がるのではないかと考えられます。
84	米政策転換に対応した花きの露地新作型とハウス高度利用技術の開発	園芸試験場	一般	B	転作田を使った露地花卉栽培の試みは面白いと思います。農業者の所得安定に直結する成果と普及の道筋を付けることが期待されます。
85	日本海側の気象に対応したトマトの長期多収生産体系の開発	園芸試験場	一般	B	トマト需要は伸びているので必要な研究だと思えますが、解決すべき課題とその手法が伝わってこないため、ブレークスルーとしてのアイデアの良しあしが判断できませんでした。
86	やまがた型特産野菜の省力高収益周年栽培技術の確立	園芸試験場	一般	B	新規参入者でも安定した経営ができるようになることを期待しますが、やまがた型特産野菜というタイトルからすると、研究内容が狭すぎるのではないかと考えられます。
87	特産花きの日持ち保証販売に対応した品質保持体系の確立	園芸試験場	公募	可	花きの日持ち保証販売は面白い試みだと思えます。日持ち技術について理論的な考察ができるものであれば、消費者に対しても説得力を持つと思えます。
88	国際競争力強化と輸出拡大のための超大玉オウトウ生産・加工技術開発	園芸試験場	公募	可	大玉生産の見通しがつきつつあると感じられました。優れた加工技術の中味の説明、発展性の記載も必要と感じました。
89	りんご半わい性台木を活用した積雪地帯型早期成園化技術の開発	園芸試験場	公募	可	実証研究として結構と思います。樹形仕立て法についても、理論的考察ができると、説得力のある実証試験になるように思います。
90	すいかの省力化と高品質化を可能とする改良型密閉栽培技術の開発	園芸試験場	一般	B	生産性を高めて競争力を強化することは意義のある研究であると思えますが、収量・品質の低下を伴わない技術の確立を期待したい。
91	バラの周年生産におけるCO <sub>2</sub> 施用高効率生産技術の確立	園芸試験場	一般	A	ICTを活用した自動制御技術は、今後必要になってくる分野であり、花き栽培で活用しやすい技術だと思えます。工業技術センターとの連携も是非ご検討ください。
92	4L生産を目指した超大玉おとう品種の開発	園芸試験場	一般	A	見通しがついてきているようですので、進展を期待します。なお、大玉のDNAマーカーを得ることができれば、今後の品種開発において非常に有効であると期待されます。
93	将来の産地構造に対応した機械収穫技術の開発	園芸試験場	一般	A	省力化のため、発展を期待したい課題ですが、先の長い研究であるとの認識が必要であると思えます。工業技術センターとも連携していただきたいと思えます。
94	次世代型おとう生産のための基盤強化技術の開発	園芸試験場	一般	B	着実に研究が進展していると思えます。考案した樹形が作業面の軽労化のみならず、収量の面でも改善しているので、今後の導入が期待される技術であると思えます。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
95	西洋なしの消費拡大のための生産・流通技術の開発	園芸試験場	一般	B	山形県は西洋なしの産地として研究をリードしてもらいたいと思います。なお、開発した技術をどのように普及していくかについても、十分検討してください。
96	秋期生産で所得向上！トマト安定生産技術の開発	園芸試験場	一般	B	トマトは全国で取組が進んでいますが、秋冬に生産できれば、大きな競争力となる可能性があると考えられます。他のトマトの課題とも連携して進めてください。
97	次世代型施設におけるトマトの栽培技術実証と低コスト「見える化」システムの開発	園芸試験場	一般	C	企業的大規模生産の必要性が理解できませんでした。また、こういった大規模生産は、他県・企業等で先行研究があるように思いますので、それらを超える工夫があると良い。
98	省力多収に向けたねぎの平床密植栽培技術の開発	園芸試験場	一般	B	最上地区のねぎのブランド化も進んできており、県全体として、ねぎ生産の拡大に向けた取組は重要と思います。省力化に加え、多収も達成できれば、普及が進むと思います。
99	温暖化に対応した果樹・野菜・牧草・林木の適応性調査	園芸試験場	業務	可	温暖化の進行をむしろ強みに活かす研究は、タイムリーな研究として評価される。外観も含めた品質の特徴や機能性成分の違いなども明らかにし、将来のブランド化に役立てればと思う。
100	ソーラーシェアリングの営農技術の開発と評価	園芸試験場	業務	可	引き続き栽培適品種の選定を続けると良い。また、経営的試算もしてみると良い。
101	園芸作物奨励品種決定調査	園芸試験場	業務	可	新品種・系統の産地普及に向けて適切に業務が進捗している。育成系統・系適系統の長所、短所を見極めて、早期品種化を期待する。
102	特産園芸作物の原種苗供給	園芸試験場	業務	可	県産品種の維持、及び、原種や遺伝資源の維持・保存は重要な基本的業務である。
103	温暖化に対応した水稻の安定生産技術の開発	水田農業試験場	一般	B	気候変動へ臨機応変に対応できる地力をつけるための重要な課題だと思います。
104	水稻有機栽培における家畜ふん堆肥等の利用を核とした循環型肥培管理技術の確立	水田農業試験場	一般	B	実際の施用方法まで含めて、環境対応も十分に考慮された適切な技術が確立されることを期待します。
105	第Ⅴ期水稻主力品種の育成	水田農業試験場	一般	A	山形県産ブランド米のラインナップ充実のために継続的な取り組みが必要な研究である。
106	第Ⅲ期地域特産型水稻品種の育成	水田農業試験場	一般	B	主食用米以外の利用は、今後伸びていく分野だと思うので、利用場面に相応しい水稻品種育成は、継続的に実施すべき研究課題である。
107	第Ⅱ期イネゲノム情報を用いた新品種選抜システムの構築	水田農業試験場	一般	A	消費者にとって魅力的な品種を効率的に開発するために必要な取組みと思います。これまでの知見を活用し、成果につなげていただきたい。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
108	業務用東北オリジナル水稲品種の共同選定	水田農業試験場	公募	可	東北地域の研究試験機関との連携課題であり、山形県が東北全域に貢献できるチャンスでもあり、有用な成果を期待したい。
109	SNPアレイを活用した「つや姫」の早生同質遺伝子系統の育成	水田農業試験場	公募	可	本県の今後の水稲育種にも応用展開できる内容で結構と思います。
110	大規模経営体の競争力強化に向けた先端的土地利用型作物栽培技術の実証研究	水田農業試験場	公募	可	本実証試験が高齢化、過疎化、耕作放棄、農村景観の劣化等、多くの問題の打開策においても活用されればよい。成果のまとめ方、普及の仕方など工夫して欲しい。
111	業務用米ニーズに対応した米の食味特性評価法の確立	水田農業試験場	一般	B	業務用米の消費量増加を促進するための基礎技術として有意義である。利用場面を考慮して特性評価を行うと良いであろう。
112	「山形糯128号」の安定多収栽培法の確立	水田農業試験場	一般	C	高品質糯米の生産維持は、日本の「餅」に関わる文化を維持する上で非常に重要である。日本食が国際的に評価されている昨今、保存食にもなる餅の需要拡大が予想され、時期を得たテーマとして期待したい。
113	水田をフル活用した利用しやすく環境にやさしい飼料用イネ栽培技術の確立	水田農業試験場	一般	C	飼料用米の安定生産も可能であり、低コスト化とも繋がる豚尿の利用方法等の開発を期待したい。
114	水稲新品種「山形112号」の栽培法の確立	水田農業試験場	一般	B	新品種を新たなブランドとして確立していくためには有効なマニュアルが不可欠であると考えられ、本研究の成果が期待される。
115	胚移植技術を活用した高能力牛増産技術の確立	畜産試験場	一般	B	これまで蓄積した成果やデータを活用して進めていただきたい。
116	県産飼料資源活用によるやまがた地鶏の飼料給与技術の開発	畜産試験場	一般	C	資源の有効活用の点から発展を期待したい課題である。地鶏の特徴を肉質として実感できなければ、「山形らしさ」を表現するのは難しいと考える。
117	ゲノミック評価情報を活用した育成および初産時周産期における飼養管理技術の確立	畜産試験場	一般	C	実際の飼育に利用できる情報がどの程度、取得可能かという点でも検討し、有効性の検証を行って欲しい。
118	サイレージ調製用粳米の長期保管技術の確立	畜産試験場	一般	B	現場が求める成果が出ており、実用化、普及が期待できる内容とっております。継続したデータの取得により、成果の価値向上を図って欲しい。
119	ケイ酸強化くん炭モミガラ堆肥生産技術の開発	畜産試験場	一般	B	新たな手法の堆肥生産技術として、生産者が受け入れ易い技術が完成することを期待する。
120	山形牛の能力を引き出すための肥育ステージ別飼養管理技術の確立	畜産試験場	一般	C	肉質診断のための適切な画像の取得法、解析手法の開発を整理して、肉質向上に寄与する飼養管理技術を確立される事を望みます。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
121	乳中尿素態窒素(MUN)等を指標とした高泌乳牛の栄養管理技術の確立	畜産試験場	一般	B	新しいマーカーとして機能するなら期待したい研究内容である。飼養管理に最も適したマーカーは何かという観点でも検討するとよい。
122	夏季間の繁殖能力改善のための抗酸化作用等を活用した飼料給与技術の確立	畜産試験場	一般	B	発酵させた混合飼料の調製過程で抗酸化作用等の特性がどのように変化するのか、定量的に明らかにする必要があります。また、影響の程度を論理的に説明するために有効なマーカーが欲しい。
123	肥育牛の飼料効率向上を実現する膨潤発酵飼料の低コスト化と給与効果の実証	畜産試験場	公募	可	膨潤した飼料の給与効果について、個々の膨潤発酵飼料の特徴を明確にし、マニュアルの作成等に反映して欲しい。
124	乳用牛における泌乳中エネルギーバランスの総合的評価手法の開発	畜産試験場	公募	可	泌乳中の乳用牛の健康維持のため、体重、泌乳量の減少を抑制する目的で、飼養管理を行うが、管理指標を見出す際に、ねらいとするものを明確にすると分かり易い。
125	高品質多年生牧草の育成と利用年限延長のための技術確立	畜産試験場	公募	可	新しい牧草を導入する際には、栽培技術を確立すると共に、この飼料を与えた牛の肉質等にどのような影響があるのか、といった解析も求められる。
126	耕畜連携の強化による飼料コスト低減化技術の現地実証	畜産試験場	公募	可	畜産農家へ着実に普及される技術になることを期待したい。
127	和牛肉の香り成分等の網羅的解析に基づく新たな食味評価技術の開発	畜産試験場	公募	可	和牛(特に山形牛)の品質維持のために、有効な食味の定量化手法の確立を期待したい。
128	飼料作物優良品種選定調査	畜産試験場	業務	可	県内における飼料作物の栽培から自給飼料を確保するためには、より多くの有望な品種や系統について、本県の気象条件下で栽培適性試験を行う事が重要。
129	新規抗体検出法を用いたローソニア感染症の効果的な被害低減対策の検討	養豚試験場	一般	A	ローソニア感染症は農家にとって打撃の大きな被害があるため、効果的な対策手法を明らかにすることが望まれる。
130	水田資源活用飼料による養豚経営の安定化	養豚試験場	一般	C	水田資源を活用して調製した飼料と、濃厚飼料の割合をかえ、あるいは不足栄養素を補足し、飼育にふさわしい飼料の比率などを見出す内容のように思います。水田資源活用飼料の成分特徴などを明らかにした上で、目指すべき飼料の調製、実証試験を行って下さい。
131	豚精液性状に対する暑熱ストレスとその影響の解明	養豚試験場	一般	B	温度、湿度以外にも、その時々に応じながら、暑熱ストレスと関連すると思われる影響因子の解明とその制御について検討される事を期待します。
132	カーボンナノチューブ含有成形体を用いた効率的な豚舎温度管理技術の確立	養豚試験場	一般	B	カーボンナノチューブの応用研究と豚舎温度管理の効率化の両面で有意義といえます。従前の暖房システムとのコスト、性能の比較も行うと良い。
133	飼料用米、酒粕を活用した特色ある豚肉生産技術の確立	養豚試験場	公募	可	酒粕の添加効果を定量的に把握できるとよいと思います。そのためには酒粕の加工、不足栄養素の定量的補足など、飼料調製に工夫をこらし、飼育試験に着手されたい。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
134	大型クロマグロの魚場形成要因の解明	水産試験場	一般	A	周辺他県との共同作業により、より有用な情報が得られるように思われる。漁業者の所得増加につながるため、貴重な研究成果になると思われる。
135	底魚類漁獲動向予測調査	水産試験場	一般	A	予測精度の向上のために考えている手法の提案があるとよい。漁業者にどのような形で研究成果を生かしてもらうのか、よくわからなかった。
136	トラフグの種苗生産と放流に関する研究	水産試験場	一般	B	種苗生産を上げるための工夫についても十分検討して進めて欲しい。伝統的に先行している地域があり、その知見は活用すべき。適切な放流サイズや放流尾数、放流適地をどのような形で評価するのか示して欲しい。
137	食用海藻利用促進と漁港内での藻類簡易増殖技術の開	水産試験場	一般	B	是非広域連携も検討していただきたい。食べ方や加工法など消費を増やすための取組みも並行して必要と思う。簡易化と大量生産への道筋について、分かり易い説明が必要。
138	底びき網漁業活性化対策調	水産試験場	業務	可	底びき網漁期前調査により得られた情報が漁業者に提供されることにより、操業の効率化に大きな貢献ができ、試験研究機関として重要な業務である。
139	サケ・サクラマス資源調査	水産試験場	業務	可	サケ、サクラマスともに本調査で収集した膨大なデータ蓄積があるので、解析をすすめて行くことが重要である。内水試と連携して業務の推進をはかることが有効である。
140	増養殖技術指導	水産試験場	業務	可	優先度をつけて、過去の知見をふまえて、独自の実験計画を綿密に立てて実施することが求められている。
141	山形独自のブランドマス開発試験	内水面水産試験場	一般	A	研究事項の説明をより簡潔に示した上で、全体的に分り易い説明が欲しい。山形ブランドとしての独自性がより明確化されることを望む。
142	河川環境を総合的に利用したサクラマスの増殖手法の開発	内水面水産試験場	一般	A	河川環境の変化も年度毎、モニターリングされて、回帰率との関連について調べておくのもよいと思う。条件の異なる県内の様々な河川へ対応した増殖法が開発されることも期待できる。
143	地球温暖化に対応したコイ養殖期間短縮技術開発	内水面水産試験場	一般	B	再現性の確認が重要だと思う。性成熟促進技術については、過去の知見に基づく計画の記載が望ましい。低コスト生産のために養殖期間を短縮することによって生じる問題点にも注意を払う必要がある。
144	アユ友釣り漁場に適する河川環境の解明	内水面水産試験場	一般	C	種苗性の検討など、方法を十分検討されて取組むとよい。ドローンのような最新の技術を使った調査も可能では。地域における必要性について、よく検討するべき。
145	増養殖技術指導	内水面水産試験場	業務	可	計画は妥当であり、今後も継続して実施することが重要である。
146	内水面重要魚種及び河川環境モニターリング	内水面水産試験場	業務	可	計画は妥当であり、今後も継続して実施することが重要である。



整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
147	成長の早いヤナギを利用した木質バイオマス圃場生産技術の開発	森林研究 研修センター	一般	C	山形県といっても雪の状況等は地域によって大幅に異なり、環境に対する調査は精度良く行なう必要がある。ヤナギの熱量、利用価値、休耕田への植栽の実施者等検討が必要。この研究課題計画からは現在の進行状況の評価が難しい。
148	山形県スギ林分収穫予測の精度向上に関する技術開発	森林研究 研修センター	一般	C	予測精度向上のために考えている手法とその長所の提示などがほしい。「概要フロー」の中に、これまでの取り組みと成果について具体的に記述してほしい。
149	伐採地の立地環境に応じた目標林型設定技術の開発	森林研究 研修センター	一般	C	立地環境に応じた設定というのは、何を意味するのか。目的が広範囲で漠然としているため、具体的な工程が見えない。本研究の限られた年限でどこまでを求めるのかが計画からは明確ではない。
150	海岸林の低コスト育成管理技術の開発	森林研究 研修センター	一般	B	枯損を防ぐための、風除け等の技術開発なども、低コスト管理には有効と思われる。庄内砂防林では、実生から成長したと思われる山桜が数多く自生しているため、砂防の機能と観光を両立する設計はできないか。
151	菌根菌(ショウロ)感染キャビティコンテナクロマツ苗生産技術の開発	森林研究 研修センター	一般	A	防災上重要な研究であり、またシュウロの収穫というもう一つの生産性も見込めるので、研究の成功への期待が大きい。
152	県産スギ丸太材の乾燥スケジュールの開発	森林研究 研修センター	一般	C	継続課題として実施して得られた知見を具体的に記述する必要がある。最終年度であるので、積極的な普及へのアクションがほしい。使用目的をある程度考慮に入れないと議論がまとまらないのではないか。
153	キノコ新品種開発と品目転換に対応した生産技術の開発	森林研究 研修センター	一般	B	当面の対象とした「タモギタケ」の選択に際し、その優位性を示す必要がある。見た目と質感、科学的根拠に基づいて工場型生産品との差別化を図り、高くても売れるブランド化を合わせて打ち出して頂きたい。
154	薬剤使用の制約に対応する松くい虫対策技術の刷新	森林研究 研修センター	公募	可	耐性品種実生の生化学的・分子生物学的特徴についても検討されるとよい。
155	地域再生を目指す国産漆の生産・利用技術の開発	森林研究 研修センター	公募	可	日本の長い漆の利用の歴史の中から学ぶことが多々あるのではないかと思う。古文書を含め、そういった視点での検索は行っているのか。DNAマーカーの開発のめどがどの程度についての不明である。
156	優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システムの体系の開発	森林研究 研修センター	公募	可	収穫時期の違うワラビの品種はないか。実際に本技術成果を誰に普及していくのかの検討もしてほしい。
157	持続的な広葉樹資源利用のためのブナ科堅果貯蔵技術の向上	森林研究 研修センター	公募	可	発芽しやすい堅果を見分ける分子生物学的手法、生化学的手法などの開発もあるとよい。実験に用いる貯蔵前の堅果の質的な同一性の確保が重要だと思う。組織学的な解析と生理学的検討を行い、貯蔵条件による違いを具体的に明らかにする必要があるのではないか。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会指導・助言
158	リアルタイムハザードマップによる低密度下におけるシカの生息管理手法の研究	森林研究研修センター	公募	可	基礎データとして、是非とも蓄積するべきである。周辺の県との共同研究も意義あるものと思います。
159	耐雪性スギ系統にみられる特異的な年輪構造が根元曲がり抵抗性に及ぼす影響の解明	森林研究研修センター	公募	可	各系統毎の個体レベルの成長の違い、特徴といった点も、基礎データとして注意深く収集し、年輪から得られるデータと比較する必要があるのではないかと。
160	革新的技術によるスギ・ヒノキ花粉症対策品種の種苗生産量の加速化と省力的生産技術の確立	森林研究研修センター	公募	可	花粉症対策品種の普及は、全国的にも大きな課題とされます。広域連携体制での研究開発により、是非早期の生産技術確立を実現していただきたい。
161	カシノナガキクイムシの寒冷地への適応からナラ枯れの北方・高標高地への拡大を予測する	森林研究研修センター	公募	可	カシノナガキクイムシの寒冷地での越冬可能にする要因を、どのように見出していくのかの観点からの研究もあるとよい。
162	ナラ枯れ予防剤に関する基礎試験	森林研究研修センター	業務	可	カプセル化によるコスト削減に成功されており大変有用な研究である。薬剤の残留量だけでなく、薬剤を注入したことによる樹木の成分の変化など生理応答の有無も興味深い。
163	殺線虫剤によるマツクイムシ予防基礎試験	森林研究研修センター	業務	可	激害被害が確認されている場所や、特定の庭園などのマツの処理には大変有用な方法であると思われる。使用する殺線虫剤のきのこ類などに対する影響についても留意していただきたい。
164	カラマツの種子生産とコンテナ育苗試験	森林研究研修センター	業務	可	きちんと品種や形質を見定めて、地域に適したものを種苗として出していく必要がある。そのため、カラマツが植栽地域で雪の影響などをどの様に受けているかという情報も集めておく必要がある。
165	急激な被害をもたらす森林病虫獣害の調査	森林研究研修センター	業務	可	経常的な森林被害状況の把握と対策が、被害拡大の抑止力となる。継続的に進めてほしい。
166	森林資源有効活用作業システム調査	森林研究研修センター	業務	可	生産性が作業者の能力に依存する要因と相関する結果から、人材育成の方法論の開発につなげてほしい。
167	県産広葉樹資源活用のための特質解明と新たな用途開発	森林研究研修センター	業務	可	資源活用のための具体的な戦略方法の立案もあると分かり易い。
168	森林へのタケ侵入防止に向けた調査	森林研究研修センター	業務	可	竹の北限とされる県内の状況把握を行う研究として、画期的である。竹林管理法の開発へつなげる実態調査、課題抽出に向けた予備見当も十分進んでおり、成果が期待できる。生理学的、化学的側面から検討を付け加えるのもよいと思われる。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
169	地域園芸技術支援事業	村山産地研究室 最上産地研究室 置賜産地研究室	業務	可	新技術・新品目等について、技術実証や展示栽培を通じた普及拡大をはかり、地域にあった園芸作物による産地づくりは地域の発展をはかる上で大変重要かと思えます。
170	スナッフエンドウの抑制栽培技術の開発	村山産地研究室	一般	B	本研究の成果によって、どの程度の生産者が導入し収益につながられるのか試算も必要と思う。当然他県でも同様の取り組みを行う可能性もあり、有利性のためにはスピード感も重要と思う。
171	オウトウ雪害回避技術の開発	最上産地研究室	一般	B	果樹一般に適用できる既存の雪害対策と、果樹としてのオウトウの特徴により必要となる対策とに分けて整理することが必要である。他県の豪雪地帯の情報を取り入れていくことは短期間での技術開発に有効である。
172	市場ニーズの高い山菜オリジナル新品種の開発	最上産地研究室	一般	B	多収性には、品種特性の他、資材の特性、処理技術、温度制御などの各種要因に影響されるかと思えます。たらの芽等の優良系統の選抜を経て、収量増加がデータとして示されるよう期待したい。
173	長期どりアスパラガス栽培に対応した改植技術の確立	最上産地研究室	一般	A	最終年度に向けて、課題達成のために何をどのように重点的に取り組むのか分かりにくい。現地実証の結果を十分に解析し、実際の増収効果の見込みを出すことが普及において重要。
174	最上ニラの生産拡大技術の確立	最上産地研究室	一般	B	研究の概要の説明が一般的過ぎる。ハウス利用のニラ栽培であれば、他産地ですでにやられているのではないだろうか。あまり新規性は感じられない。
175	タラノメ新品種「最上A2号」の早期多収栽培技術の確立	最上産地研究室	一般	B	ブランド維持には、早期多収だけでなく、大きさ、食感、風味などのおいしさの要素も確実に評価する必要がある。「研究計画の概要とスケジュール」の数値目標に記載された数値が具体的に意味するものを明らかにして欲しい。
176	薬用作物の国内生産の拡大に向けた技術の開発	置賜産地研究室	公募	可	これまで栽培を行っていない気候条件での栽培では、含まれる成分に変化が生じる可能性が考えられるため、山形で栽培された薬用作物に含まれる成分の特徴についても検討していくとよい。
177	ショウガの種苗生産と安定生産技術の開発	置賜産地研究室	一般	B	本県に特徴的なショウガとして栽培されるような品種の導入ができればよいと思う。西南暖地からの購入と県内での貯蔵コストのどちらが安いのかを比較する必要がある。
178	アスパラガス夏秋期収量向上技術の開発	置賜産地研究室	一般	B	説明にある方法論を適用する際、着目した点と目指す改善点が何かについて、具体的に記述して欲しい。もっと効率的で良いやり方なども検討し、取り入れるような検討も必要でないか。

整理番号	課題名	試験研究機関	課題区分	評価結果	評価委員会 指導・助言
179	いちごオリジナル新品種の開発	庄内産地研究室	一般	B	現在選定されている有望系統のサマーティアラに優位な点を示して欲しい。これまでの2年間の研究から、現在どれほどの成果が期待できる状況にあるのか、研究手法が妥当であるのかについて、よく検討する必要がある。
180	甘柿の安定生産技術の開発	庄内産地研究室	一般	B	甘柿の生産技術開発と同時に加工品の需要等の調査も重要である。平核無との違いは、観光農園ができることにあるかもしれないが季節による集客の見込みは入念に検討する必要がある。
181	さといも早掘り栽培での遊休農地有効活用	庄内産地研究室	一般	C	真夏におけるさといもの収穫作業や貯蔵管理の技術についても検討が必要である。
182	日本一えだまめ食味産地形成技術の開発	庄内産地研究室	一般	B	食味と、近赤外分析における波長の特徴、官能基との関係、長所・問題点などの説明があると、説得力がある。肥培管理と食味の関係については、気候の影響等もあるので、慎重な解析をして欲しい。
183	育苗施設の高度利用によるパブリカの栽培技術実証研究	庄内産地研究室	公募	可	病害虫対策の概要がみえにくいので、十分検討の上、進められたい。最終年度に向けて、これまでの成果と残された課題を丁寧に示してほしい。
184	東北の水田地域への春まきタマネギ栽培技術確立と実証	庄内産地研究室	公募	可	本研究で重要な部分は、その研究手法・見通しも記載すると説得力が高い。腐敗球の少ない栽培・乾燥技術について、どのような方法を試みようとしているのか、説明が欲しい。